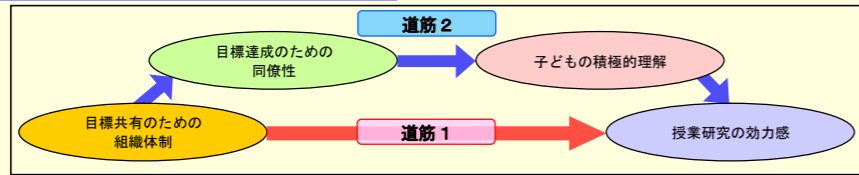


指標(改訂版)を使って、校内授業研究の成果を把握しましょう

当センターではこれまでに、「授業研究の効力感」をもつことができるよう、下図のような二つの道筋を示してきました。「校内授業研究診断・評価指標」(改訂版)は、各要素の平均値がレーダーチャートで表れるようになってきました。これを年度初めと年度末に実施し、自校の校内授業研究の成果を把握しましょう。

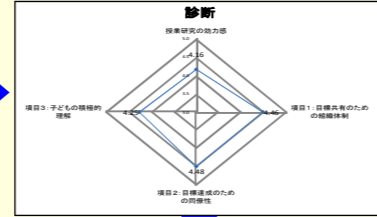
【「授業研究の効力感」を導く二つの道筋】



【「校内授業研究診断・評価指標」(改訂版)】

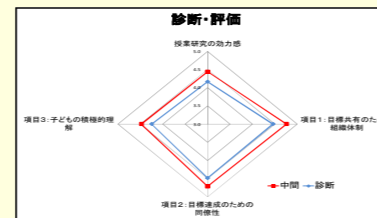
要素	No.	項目
授業研究の効力感	1	私は、授業研究を通して、教材研究を熱心に行っている。
	2	私は、授業研究を通して、子どもたちの心まにに対する理解をしようとしている。
	3	私は、授業研究を通して、授業研究をした教科の価値を見出している。
	4	私は、授業研究を通して、子どもたちの学習状況に対する理解をしようとしている。
	5	私は、自校の授業づくりのポイントを理解して授業を行っている。
	6	私は、今後、機会があれば授業提案をしてもよいと考えている。
	7	自校では、研究主題が達成されたときの具体的な子どもの姿がイメージできている。
	8	自校の子どもたちは、授業研究を通して、変容している。
	9	私は、次の協議会までに、協議会で出た成果を生かして自らの授業で取り組もうとしている。
目標共有のための組織体制	10	自校では、協議会后、協議会での「課題」を、全員で再認識する方法がある。
	11	自校では、協議会后、協議会での「成果」を、全員で再認識する方法がある。
	12	自校では、提案授業を構想する際に、前回の協議会で出た成果や課題を受けて学習指導案を作成している。
	13	自校では、円滑な授業研究に向けて、全体が機能している。
	14	自校では、前回までの協議会での課題を受けて協議会を改善している。
目標達成のための同僚性	15	自校では、研究主題を達成するための手立てが共有されている。
	16	自校では、日頃から、授業の指導方法や教材について話している。
	17	私は、協議会での同僚の発言から学ぶことがある。
子どもの積極的理解	18	私は、自校の学校研究主題達成のために、授業研究に関わって同僚と意見交換を行っている。
	19	私は、子どもたちの発言の裏にある気持ちや考えを読みとって授業を行っている。
	20	私は、ノートや成果物等から子どもたちの表現しきれない気持ちや考えをとらえている。
	21	私は、子どものつまずきの状況を把握して授業を行っている。

【年度初め：課題を見付ける】



<実践>

【年度末：1年間の取組を評価する】



次年度の計画に生かす

【研究推進校の変容～校長より～】

【青崎小学校】

「子どもの積極的理解」を向上させるために、授業中の子どもの姿を描きながら教材やワークシートなどの工夫を重ねました。研究主任を中心に自主的・積極的に校内授業研究に取り組むことができています。(濱西 文子 校長)

【東野小学校】

既習事項を把握し、しっかりとゴールを見据えた授業ができるようになってきました。学年で子どもの実態をもとに授業を組み立てる話し合いが多く行われるようになり、「目標達成のための同僚性」の向上を実感しています。(坂本 明美 校長)

【吉島中学校】

思考ルーブリックを活用することによりどのレベルを思考させるための発問であるのかを吟味するようになりました。子どもの反応から発問を評価でき、手立てを習得することで、授業実践を省察する視点が増えました。(高畑 伸穂 校長)

【研究指導者】 広島経済大学経済学部 教授 胤森 裕暢
広島大学大学院教育学研究科 准教授 木下 博義

【研究者】 研修1部 主任指導主事 藪田 知子 指導主事 木原 和子 指導主事 福原 宏
指導主事 大上 隆之 指導主事 西田 理恵
研修2部 指導主事 梶江 博史 指導主事 野上 真二 指導主事 川口 大輔
指導主事 西田 由香 指導主事 北谷 一水

【研究推進校】 広島市立青崎小学校 広島市立東野小学校 広島市立吉島中学校

【編集・発行】 広島市教育センター
〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580 E-mail: center@e.city.hiroshima.jp
外部Web: http://www.center.edu.city.hiroshima.jp 内部Web: http://10.91.11.102/

校内授業研究の充実

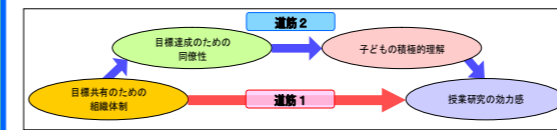
～学校研究主題に迫るルーブリック～

ルーブリックとは

ルーブリックとは、学習評価をするための【質的な採点指針】のことです。子ども達の成長や学びの具体的な姿の段階に着目することで、一人一人の子どもの学びの質を判断していくことができます。一般的なルーブリックは、教科内容に即しながら、一単元や一授業を単位として作成されます。右図のように、達成の度合いを表す数段階の尺度(右図ピンクの部分)と、尺度に対応する子どもの具体的な姿の特徴を記した記述からなる評価規準(右図ブルーの部分)で構成されています。また、完成したルーブリックに価値があることはもちろんのこと、作成まで多くの教員が精査・検討し、繰り返し修正する過程そのものも、優れた授業研究と捉えることができます。

尺度	子どもの具体の姿
5	
4	
3	
2	
1	

学校研究主題に迫るルーブリックとは



当センターではこれまで、校内授業研究の充実のために左図の【「授業研究の効力感」を導く二つの道筋】に基づき研究を進めてきました。今回は、特に、「目標達成のための同僚性」「子どもの積極的理解」の要素をより確かなものとして高めていくための方策として、学校研究主題に着目し、ルーブリックを作成することを提唱します。

【理由】

- 学校全体で育成したい資質・能力について、繰り返し協議するため、学校全体で目指す子ども像への**共通認識**ができ、**教員の同僚性が向上し、子どもの積極的理解が進む**こと。
- 一部の教科にとどまらず全教科・領域で、さらに年間を通じて活用できるため、**発達の、長期的な子どもの学びの質とその変容を捉えることが可能**になること。

なお、今年度から学校研究主題に迫るルーブリックを活用した授業研究を研究推進校で実施しています。次頁に各校の取組内容を掲載していますので、参考にしながらルーブリックの作成に取り組んでみましょう。

Let's Try!

作成の流れと留意点

下図の①～④はルーブリックを作成する際の流れと、その留意点を示しています。まずは、**学校全体で育成したい資質・能力**を、キーワードとして抽出できるように**全教員で協議し、共通理解**していきましょう。また、学習指導案の事前検討会や協議会などを活用し、多くの教員が関わるように**作成の場を工夫**しましょう。

	尺度	子どもの具体の姿
5	①学校研究主題からキーワードを抽出する。	④尺度に基づいて、授業で扱いたい内容を子どもの視点から捉え直し、具体の姿を表現する。
4	②キーワードをもとに、尺度を決めるための先行研究を調べる。	
3		
2	③先行研究を参考に、尺度を作成する。	
1		

まずは気軽に作成してみましょう。



留意点

- ① キーワードを抽出できるよう、学校全体で育成したい資質・能力について全教員で協議します。
- ② 書籍や学術情報データベース(CiNii, Google Scholar等)、教育センター図書資料室等を活用します。
- ③ 一度の協議で完成しようと思わずに、修正しながらよりよいものへ改善していく意識が大切です。
- ④ ノートやワークシート、VTR等の具体物を参考にすると考えやすくなります。

実践の概要

ルーブリックを作成・活用した校内授業研究を研究推進校で実施しました。

1年目の取組として、青崎小学校では新たに尺度を作成及び改善する実践を、東野小学校と吉島中学校では既存の尺度を適用して子どもの具体的な姿を明らかにする実践を行いました。その実践例を次に紹介します。

【研究推進校】 広島市立青崎小学校 広島市立東野小学校 広島市立吉島中学校

【研究期間】 平成28～29年度

実践の紹介

青崎小学校

東野小学校

吉島中学校

- ①学校研究主題からキーワードを抽出する。
- ②キーワードをもとに、尺度を決めるための先行研究を調べる。

- ①② 学校研究主題
「伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるように話す力を育てる工夫」
キーワード：論理的思考力
先行研究：指導事項、難波(2006)

- ①② 学校研究主題
「考えを伝え合い深め合うことで、「わかった」「わかってもらえた」を実感することができる授業づくり」
キーワード：わかる
先行研究：藤田(2016)

- ①② 学校研究主題
「学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上」
キーワード：深い思考
先行研究：櫻井(2009)、鈴木他(2012)

- ③先行研究を参考に、尺度を作成する。
- ④尺度に基づいて、授業で扱いたい内容を子どもの視点から捉え直し、具体的な姿を表現する。

- ③ 学習指導要領の指導事項を細分化して各学年の尺度(尺度①)を作成。難波(2006)を踏まえながら校内授業研究を実施し、その際の気づきをもとに内容を修正し、尺度を改善した(尺度②)。

- ③④ 尺度は、藤田(2016)による3つの「わかる」を適用。既習事項と本時のつながりや子どものつまづきを踏まえ、1時間分の授業における子どもの具体的な姿を明示する。

- ③④ 尺度は、鈴木他(2012)による「深い思考」のレベルを適用。事前検討会において、発問に対して想定される子どもの反応を付箋紙に出し合い、尺度に当てはめる。さらに高い尺度の反応となるような改善発問を検討する。

尺度	子どもの具体的な姿
5	
4	
3	
2	
1	

指導事項	尺度①(実践前)	尺度②(実践後)
第6学年	相手を引き付けたり、伝えたいことを印象付ける構成で話している。	自分の話したいことに合った構成や、聞き手の印象に残る構成の工夫をして話している。
第5学年	伝えたいことが伝わるように、話の構成を工夫しながら話している。	主張を裏付ける理由やエピソードを考慮、聞き手が納得する構成を工夫して話している。
第4学年	目的に合う内容を選び、理由・事例をふくらませ、詳しく話している。	目的に合う内容を選び、理由・事例をふくらませ、詳しく話している。
第3学年	理由や事例などをあげながら、筋道を立てて話している。	順序+理由・事例を挙げながら話している。
第2学年	はじめ、中、終わりの組み立てで話している。	時間や事柄の順序に応じて、話す事柄を順序立てて話すことができる。
第1学年	話したいことの順序を考えて話している。	時間の順序を表す言葉を入れて話している。時間の順序や事柄の順序に気を付けて、話すことができる。

尺度	子どもの具体的な姿
4 わかる(解る)	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の既習事項と比較し、「底面積×高さ」の公式で求めるよきについて、発言やノートに記述している。 どんな形になっても「底面積×高さ」を使って解くことができる。 適用問題を「底面積×高さ」で求める方法を説明することができる。 自分の考えを友達に分かりやすく説明することができる。(底面積や高さなどを図で示しながらなど・・・) 複雑な図形も角柱とみて、「底面積×高さ」で求めることができる。 底面積がどの部分になるかわかる。 円柱や角柱の求め方、「底面積×高さ」を理解している。 角柱や円柱の「底面積」の意味が分かる。 既習事項の体積を求めることができる。 角柱や円柱の形が分かる。
3 わかる(判る)	<ul style="list-style-type: none"> 「底面積×高さ」を求めることが分からない。 底面積がどこか分からない。 高さがどこか分からない。 立体の名前が分からない。 四則計算ができない。
2 わかる(分かる)	<ul style="list-style-type: none"> 「底面積×高さ」を求めることが分からない。 底面積がどこか分からない。 高さがどこか分からない。 立体の名前が分からない。 四則計算ができない。
1 わからない	<ul style="list-style-type: none"> <努力を要する児童への手立て> 模型やデジタル教科書を用いて、底面などを視覚的に捉えさせる。 小さい立体も用意しておく。 求め方を意識させたいので、計算よりも式を重要視する。 既習事項を板書しておく。

尺度	発問で予想される子どもの具体的な姿	改善発問で予想される子どもの具体的な姿
5 第三者的思考によって獲得した価値観を自分が所属する集団や社会の価値観と照らし合わせて調整する思考		
4 価値基準で判断する思考		「唯一の正解」で感謝の気持ちを伝え元気がなくなってしまった
3 自己相互の考えの相違を調整しようとする思考		今まで覚えてくれた人への感謝の気持ちを伝えたい
2 相手の立場に立って考える思考	目標お世辞になっているので	見てくれる人が少しでも元気になり、前を向けるようになるわいい
1 自己中心思考	お嬢さんありがとうございます	被災した人たちに勇気を出してほしい
0 思考しない	先生に感謝しています	家族やいろいろな人が助けてくれるから

実践の成果

次年度の展望

<青崎小学校>

該当学年で付けたい力だけでなく、6年間の系統性を意識し、学校全体で付けたい力を明確にした授業を実現することができた。

<東野小学校>

授業者だけでなく、参加者全員が授業中の子どもの具体的な姿を想定した授業を実現することができた。

<吉島中学校>

「深い思考」についての理解が進み、厳選した発問による授業を実現することができた。

<共通>

○学校全体で育成したい資質・能力を付けるための授業及び協議会を実践することができた。

○授業で扱いたい内容を子どもの視点から捉え直し表現することで子どもの理解が深まった。

○ルーブリックについて理解が進むことで、教職員の授業研究への意欲が高まった。

<共通>

●尺度と子どもの具体的な姿の双方がさらに充実したルーブリックに改善する。

●改善したルーブリックを活用して、学校研究主題に基づく子どもの理解を促進する。

